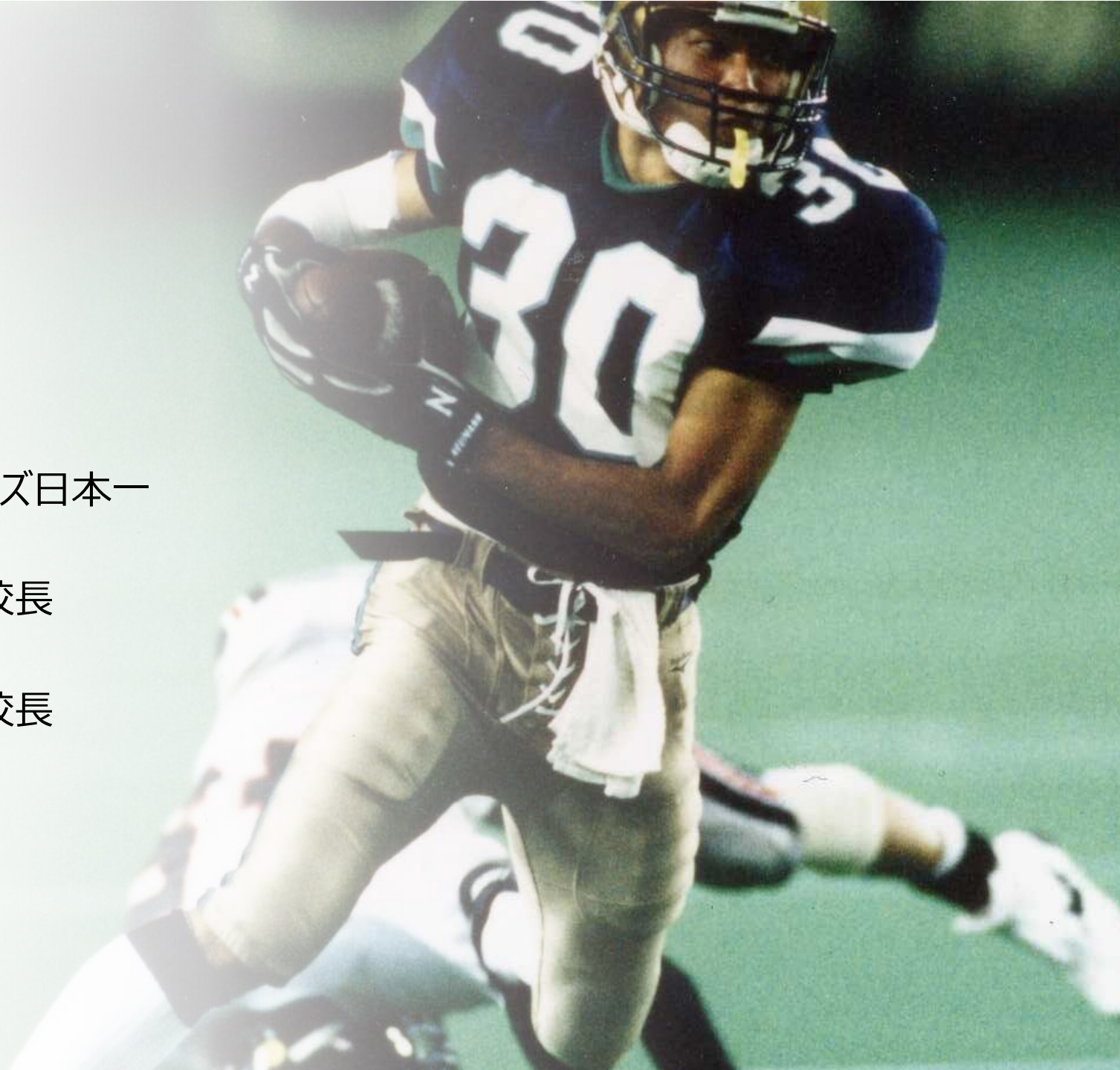


# 自己紹介

---

- ◆1996年 1998年  
社会人アメリカンフットボール シーガルズ日本一
- ◆2008年 東京都杉並区立和田中学校 校長
- ◆2013年 佐賀県武雄市 教育監
- ◆2014年 佐賀県武雄市立武内小学校 校長
- ◆2016年 長野県飯田市教育長
- ◆2022年 イマチャレ製作委員会  
経済産業省未来のブカツ・コーチ



# なぜ、部活動改革はうまく進まないのか？（1）

学業を阻害し、疾病障害を受けしむる  
勝敗に重きを置くがために公徳を傷害にして  
紛擾（ふんじょう／乱れてまとまらない）の基となる

明治40年（1907年）全国中学校長会から運動部活動についての文部省への答申

## なぜ、部活動改革はうまく進まないのか？（2）

### （1）当事者である子ども（生徒）不在の議論

- ・個々の成功体験をもとにした「続かない対話のラリー」

### （2）課題の多さにどこから踏み出したら良いのかわからない

- ・具体的なアクション（対策）をしないまま時間が過ぎる

# 部活動の「地域移行」の課題

## 地域移行の課題

### ①受け皿

地域の実態に応じた運営・組織体制の構築

- ・自治体（教育委員会）の責任で進めるのか、地域団体が始めるのか、新たに組織をつくるのか。
- ・事務局が担う業務と指導者（団体）が担うべき業務の明確化

### ②指導者の量と質

指導者の体制・あり方を見直し人材を確保

- ・競技特有の専門的な指導者の必要性を考える
- ・地域人材の発掘、確保、バンク化
- ・教員の兼職兼業の導入
- ・研修制度の導入

### ③財源の確保

持続可能な運営のために複数の財源が必要

- ・行政の予算化⇒運営の支援
- ・受益者負担
- ・企業協賛⇒スポンサーメリットは何か
- ・ふるさと納税＋経済的な困窮家庭の支援

### ④意識改革

これまでの「部活の常識」からの意識改革

- ・部活は無料⇒適切な金額を支払う文化へ
- ・学校の教職員が無償で行うことはやめる社会へ
- ・子どもたちの希望に応じた環境を創る地域社会へ
- ・大会で勝つだけでなく、楽しめる文化・スポーツ環境へ

# 部活動における課題の整理

## 地域移行の課題

「部活動の地域移行で何を目指し、いつまでに、誰が何をするのか？」

- ①受け皿
- ②人材の量と質の確保
- ③財源の確保
- ④意識改革

## 本質的な課題

「子どもたち1人1人にとっての理想的な文化・スポーツ環境を実現する」

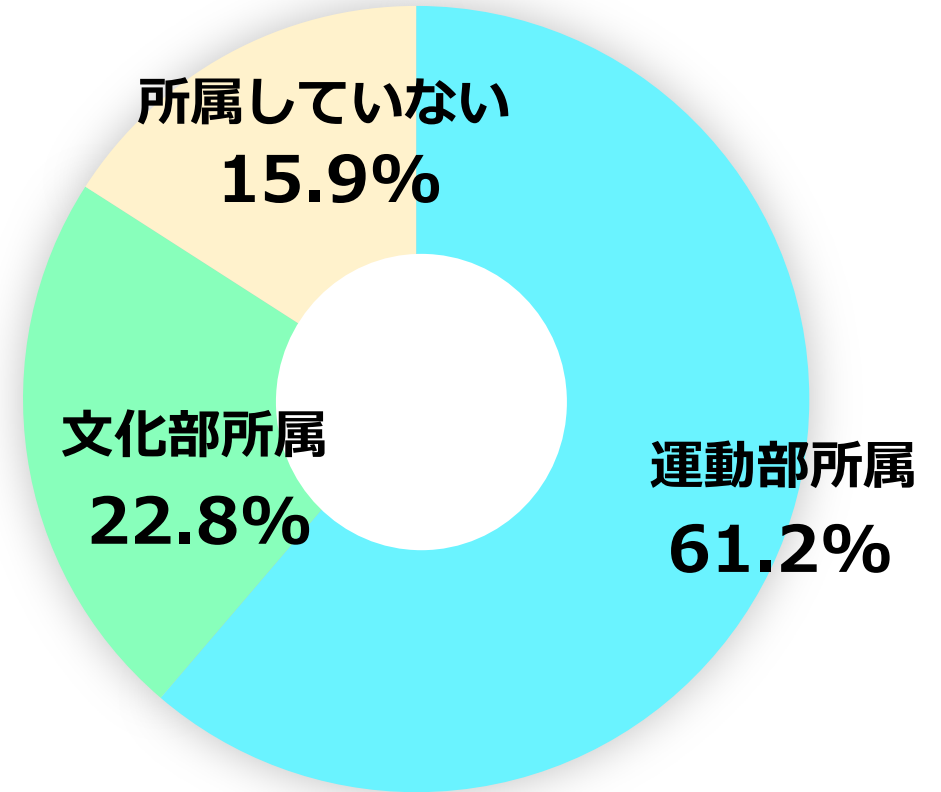
- ①適切な活動量（怪我・バーンアウト）
- ②選択肢の多様性  
（1種目しか選べない・専門化しすぎ）
- ③主体性・内発性（自分で意思決定できるか）
- ④勝利至上主義（勝敗だけに重きを置かない）

理想的な文化・スポーツ環境を創る、「まちづくり」の意識へ

# 子どもたちは今、部活動をどう考えているのか/全国アンケート

- 期間：2023年7～8月
- 対象：中学1～3年生
- データ数：9,953名
- 参加自治体：  
大津町、加賀市、黒潮町、静岡市、須賀川市、  
名護市、姫路市、宮崎市、真岡市（五十音順）

※ 各自治体で調査を実施し、匿名化したデータを取得



第1部 メインセッション

## 全国の子どもたちが求める文化・スポーツ活動とは何か？

— イマチャレ1万人アンケートの結果から —

イマチャレ制作委員会

大人だけでは決めない!  
部活動の地域移行

イマチャレ

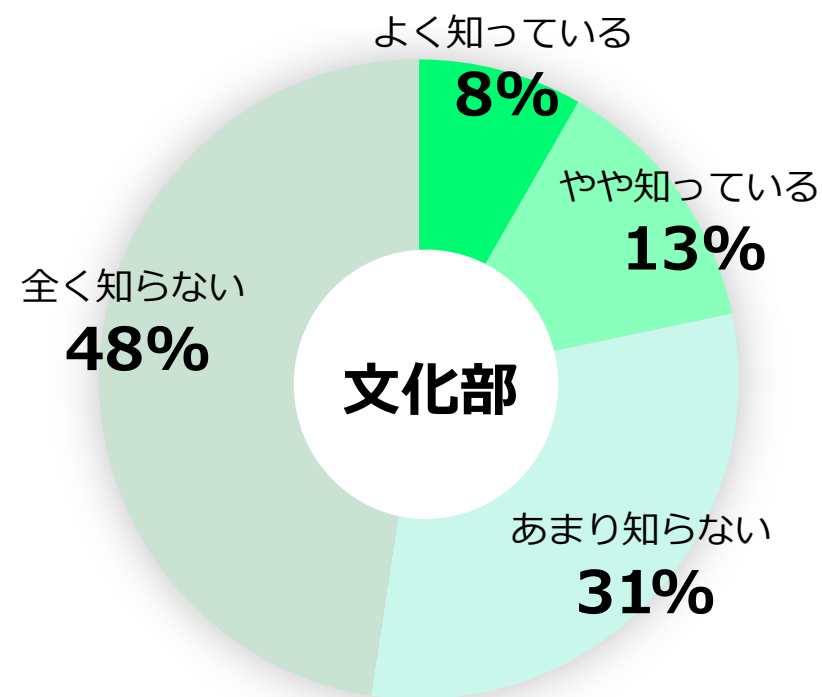
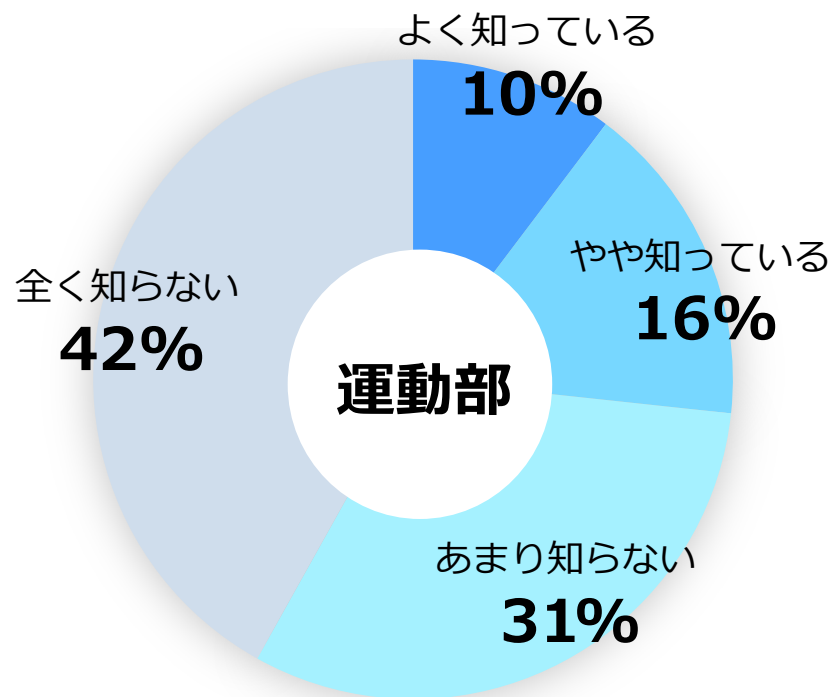
まずは子どもたちにとっての理想のスポーツ・文化環境を考えるアンケートから始めてみませんか?

2023年度から中学校の休日の運動部活動の段階的な地域移行が始まります。全国の自治体や学校現場へ教育環境を改善していかねばなりません。そのためには、当事者である子どもたちが一緒に、部活動の未来を語っていくことが大切です。

2023年4月1日より子ども基本法（注）が施行される今だからこそ、子供たちの関与にたった部活動の理想のスポーツ・文化環境を考えるアンケート。イマチャレは全国の自治体に「エシエン

# テーマ1：生徒の「部活動改革」への理解

- Q：スポーツ庁・文化庁では、休日（土日、祝日）の部活動の地域移行を令和7年度末までに推進しています。そのことについて知っていますか？



部活動改革が進んでいること知っている生徒は少ない

# テーマ1：生徒の「部活動改革」への理解

## ■ 結果のまとめ

部活動改革が推進されていることを知っている生徒は25%程度

⇒ 生徒への周知に至っていない

## ■ 提言

改革推進のため、生徒、そして保護者への理解を促進していく必要がある

**アンケートを実施し、フィードバックすることが第一歩** になる

# テーマ2：生徒の生活実態

## ■ 部活動の日数・時間の平均

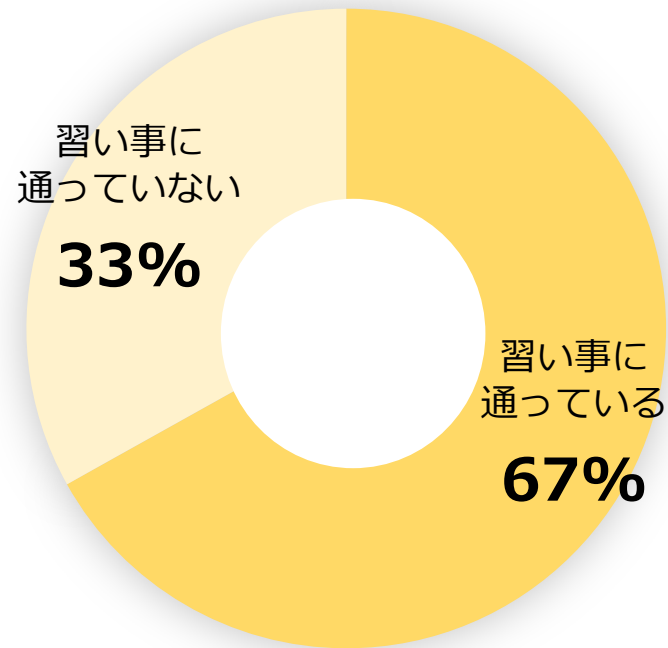
	運動部		文化部	
	平日	休日	平日	休日
日数	<b>4.0</b> 日 /週 (5日 17%)	<b>1.1</b> 日 /週 (2日 8%)	<b>3.3</b> 日 /週 (5日 10%)	<b>0.6</b> 日 /週 (2日 2%)
時間	<b>2h15</b> min /回 (2h以上 36%)	<b>2h45</b> min /回 (3h以上 65%)	<b>2.0</b> h /回 (2h以上 25%)	<b>1h30</b> min /回 (3h以上 39%)
総時間数	<b>530</b> h / 年		<b>338</b> h / 年	

※ 総授業時間数は850h、 ( ) 内はガイドラインを超えている割合

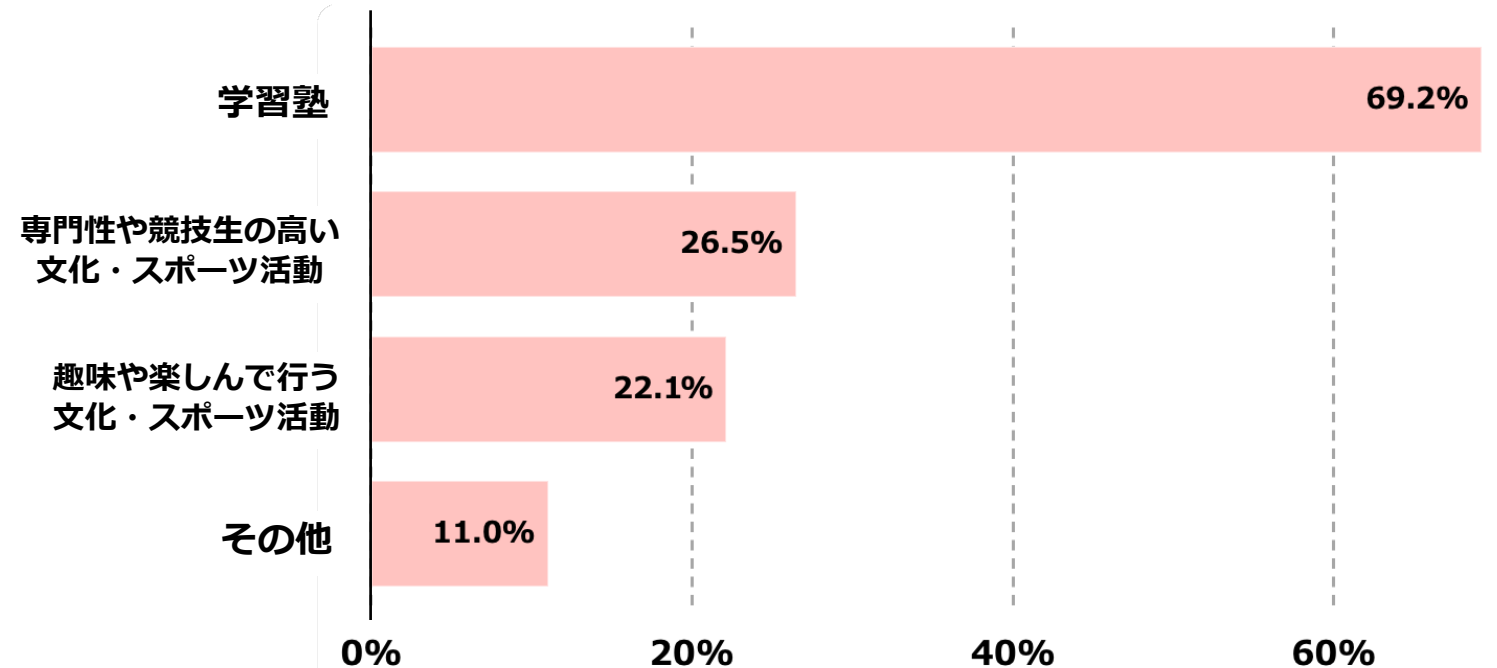
# テーマ2：生徒の生活実態

## ■ 学校以外の習い事（塾やスポーツ活動）

学習塾やスポーツ活動、  
習い事などに通ってますか？



どんな習い事をしていますか？



# テーマ2：生徒の生活実態

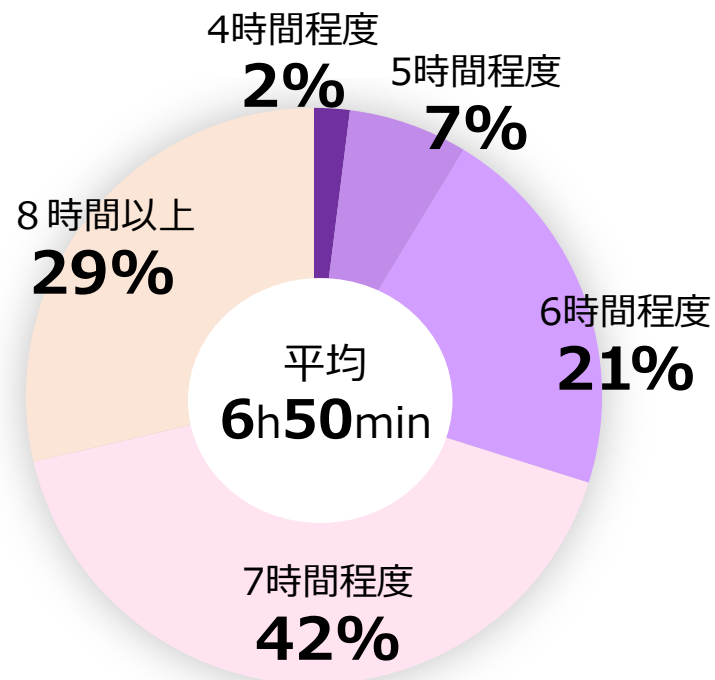
## ■ 学校以外の習い事（学習塾・地域クラブ等）の日数・時間、及び睡眠時間

### 習い事の日数・時間

	平日	休日
日数	2.0日 /週	0.7日 /週
時間	1h 50min /回	1h 20min/回
総時間数	207 h / 年	

※ 総授業時間数は855h

### 睡眠時間

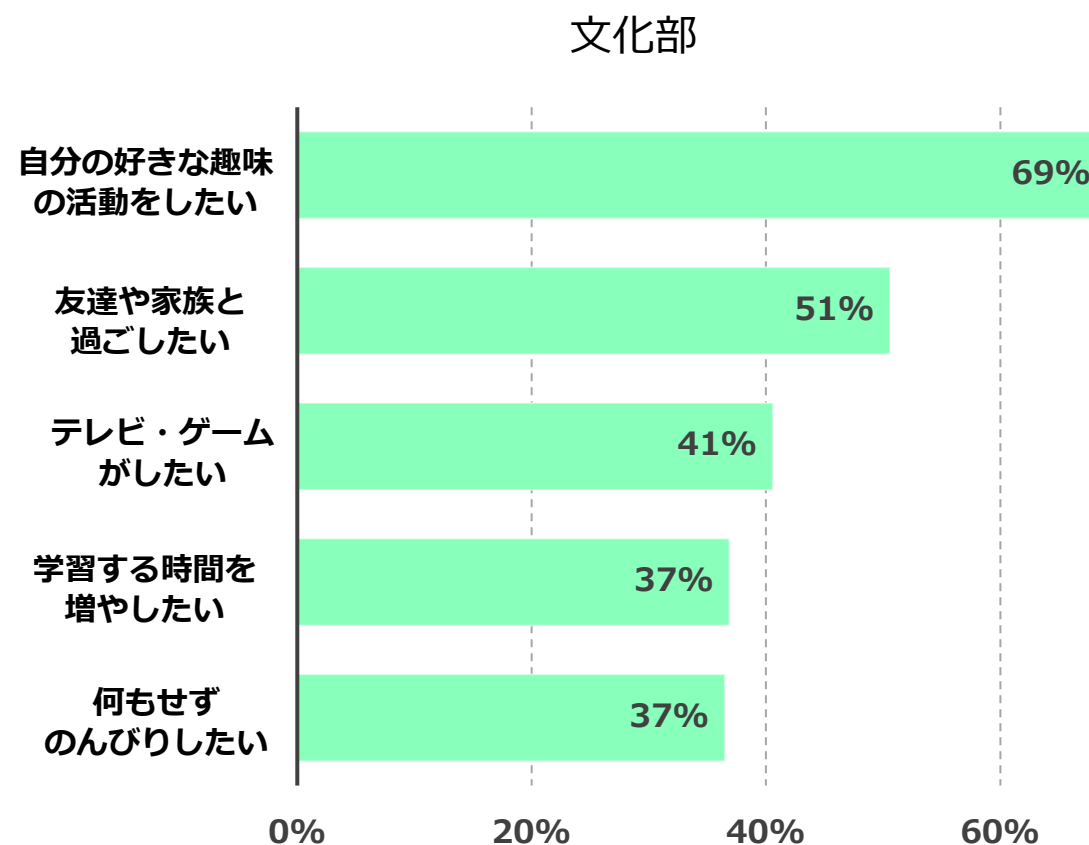
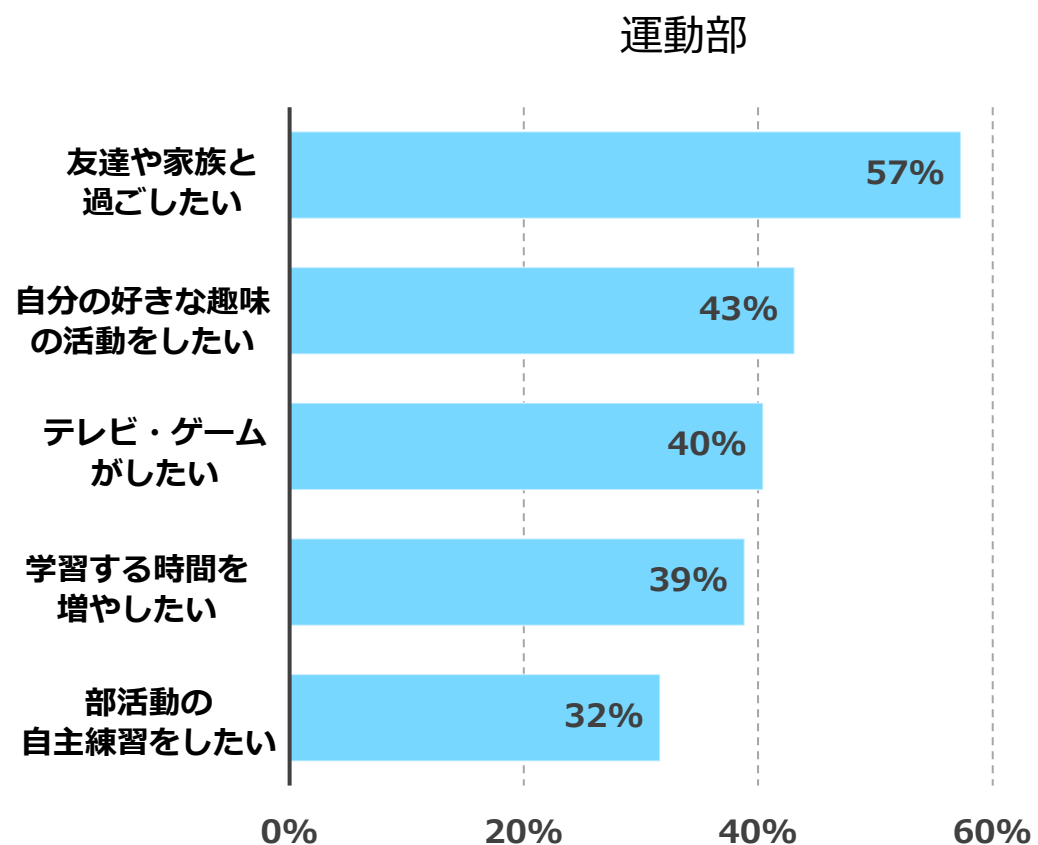


推奨：8h30min

「うつ・不安」リスクが最も低い (SLEEP; Ojio et al., 2016)

# テーマ2：生徒の生活実態

■ Q：現在の部活動の活動量（時間や日数）が今より少なくなったとしたら、その時間で何がしたいですか？（3つまで回答可）



# テーマ2：生徒の生活実態

## ■ 結果のまとめ

**「運動部＋学外の習い事」で平均740h/年の活動をしている**（総授業時間：850h/年）

**睡眠時間が6時間以下の生徒が30%いる**（推奨睡眠時間：8h30min.）

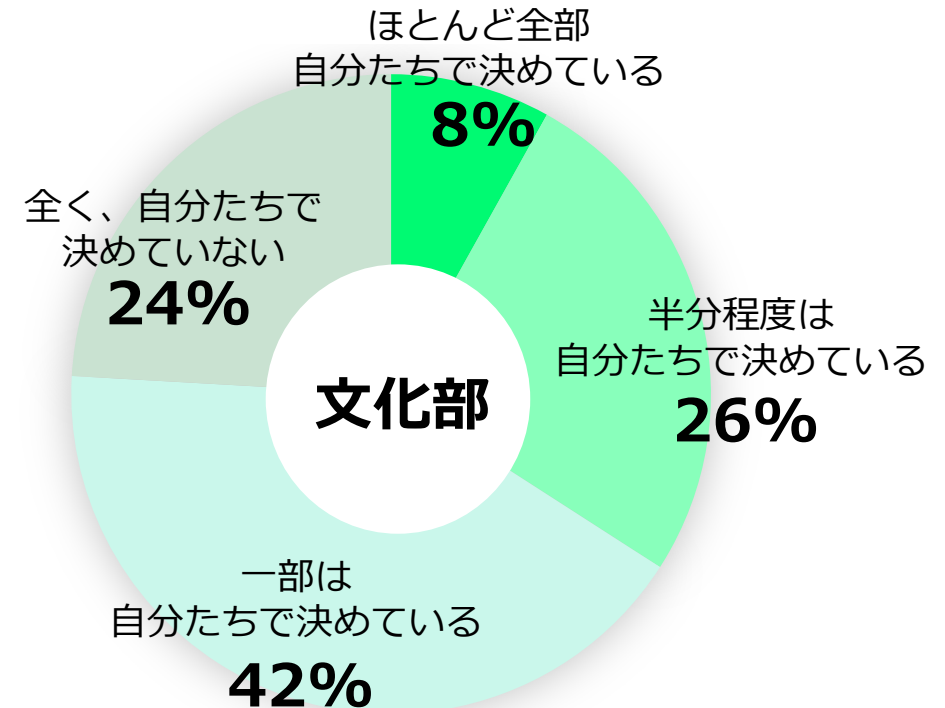
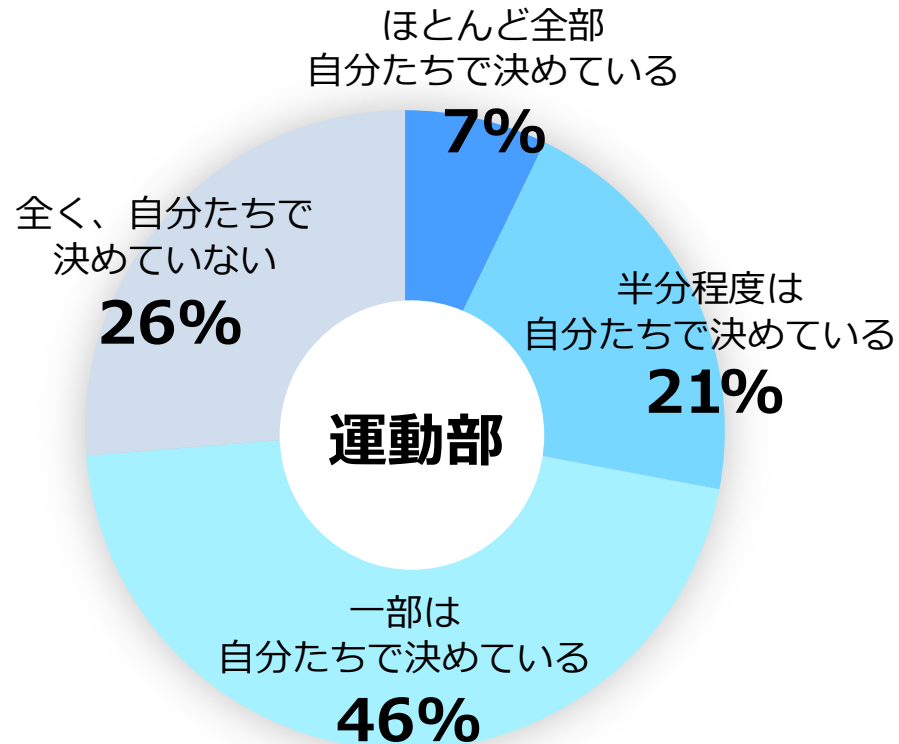
**半数近くの生徒が「友人や家族と過ごしたい」「趣味の時間が欲しい」と回答**

## ■ 提言

**心身の健全な発育発達のためにも、活動時間数の見直し・適正化が必要**

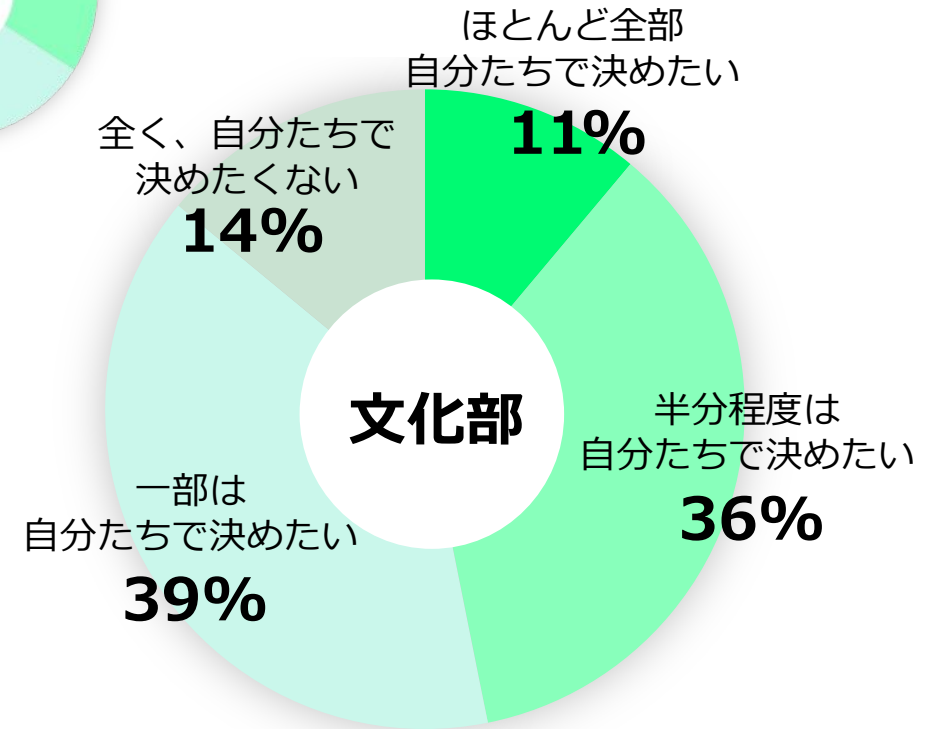
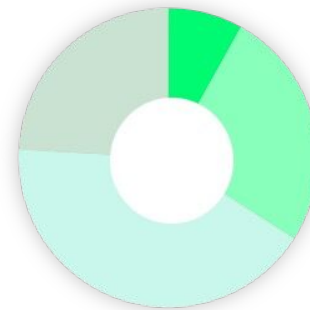
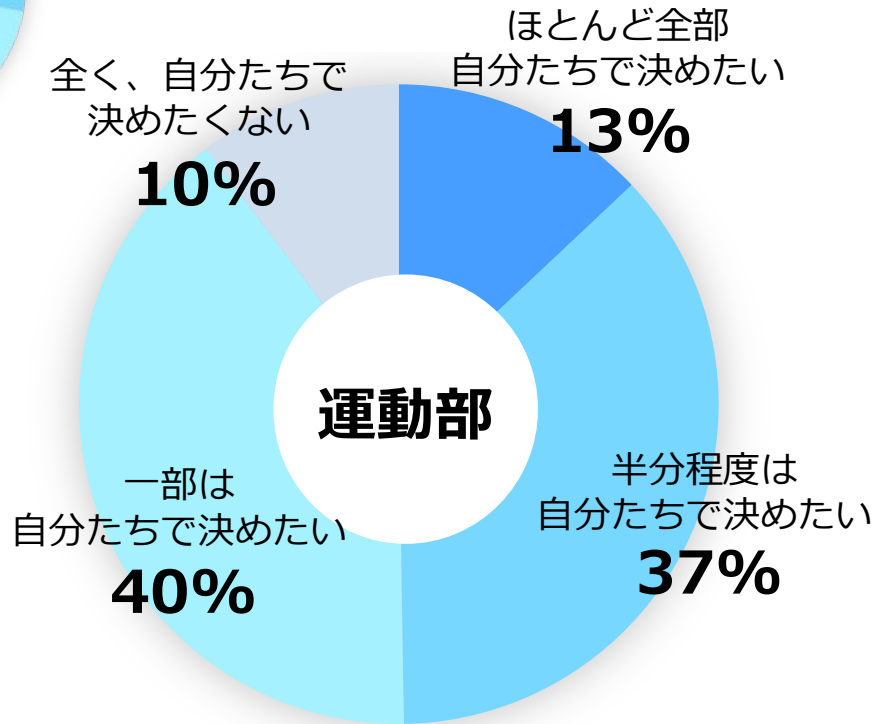
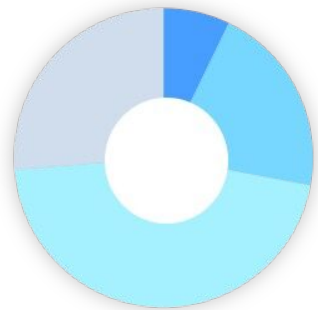
# テーマ3：現在の部活動における主体性

- Q：現在、練習の時間や内容、試合のメンバーなど、自分たち（生徒同士）で決めていることはありますか？



# テーマ3：現在の部活動における主体性

- Q：練習の時間や内容、試合のメンバーなど、部活動において自分たち（生徒同士）で決めたいと思いますか？



# テーマ3：現在の部活動環境

## ■ 結果のまとめ

活動内容について「全く自分たちで決めていない」生徒が25%程度いる

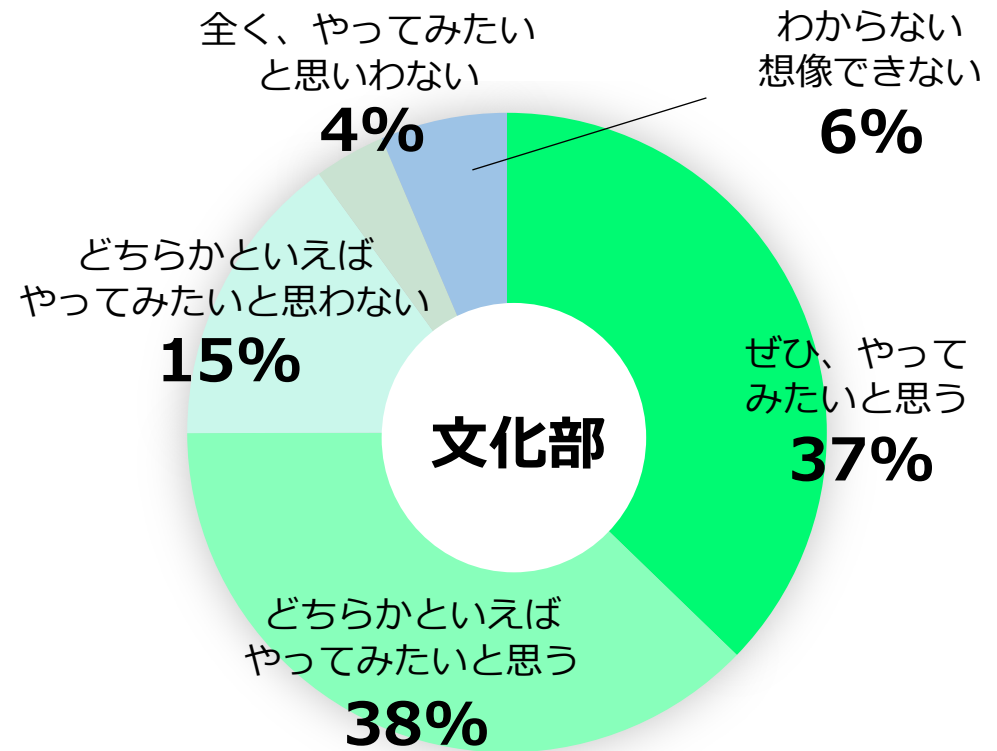
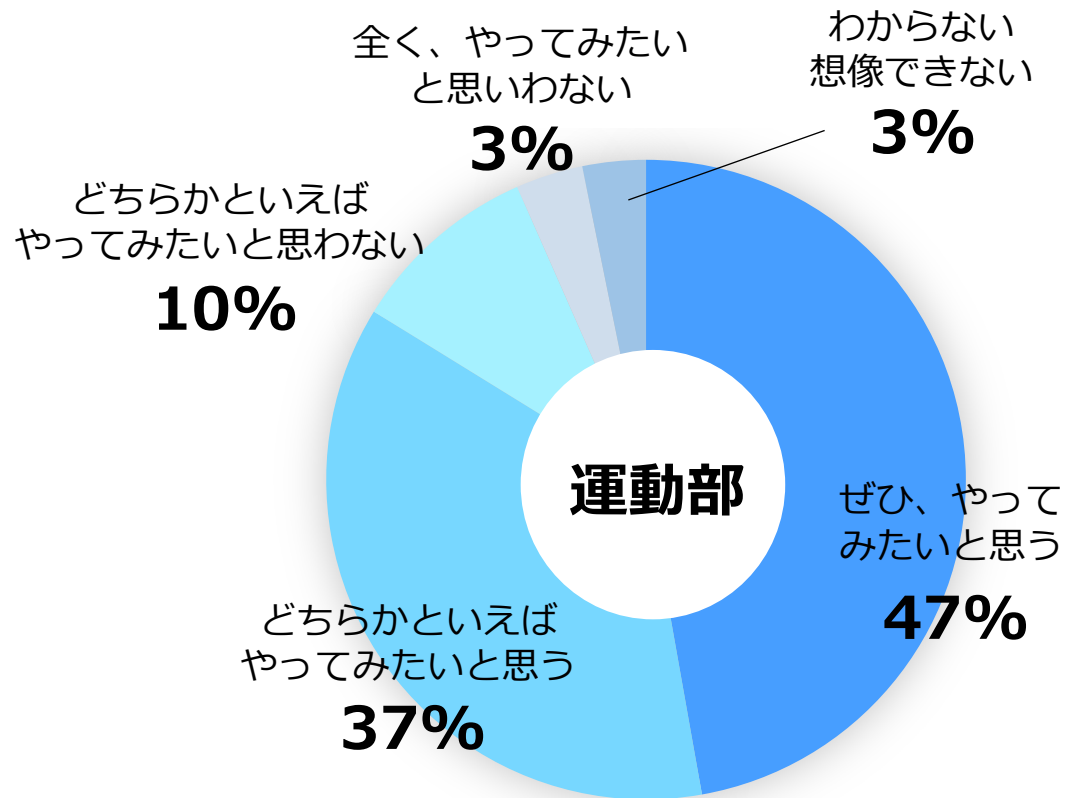
## ■ 提言

**「主体的な意思決定」**がこれからの子どもにたちには必要

⇒「自己決定する機会」を増やす

# テーマ4：より良い地域活動に向けて

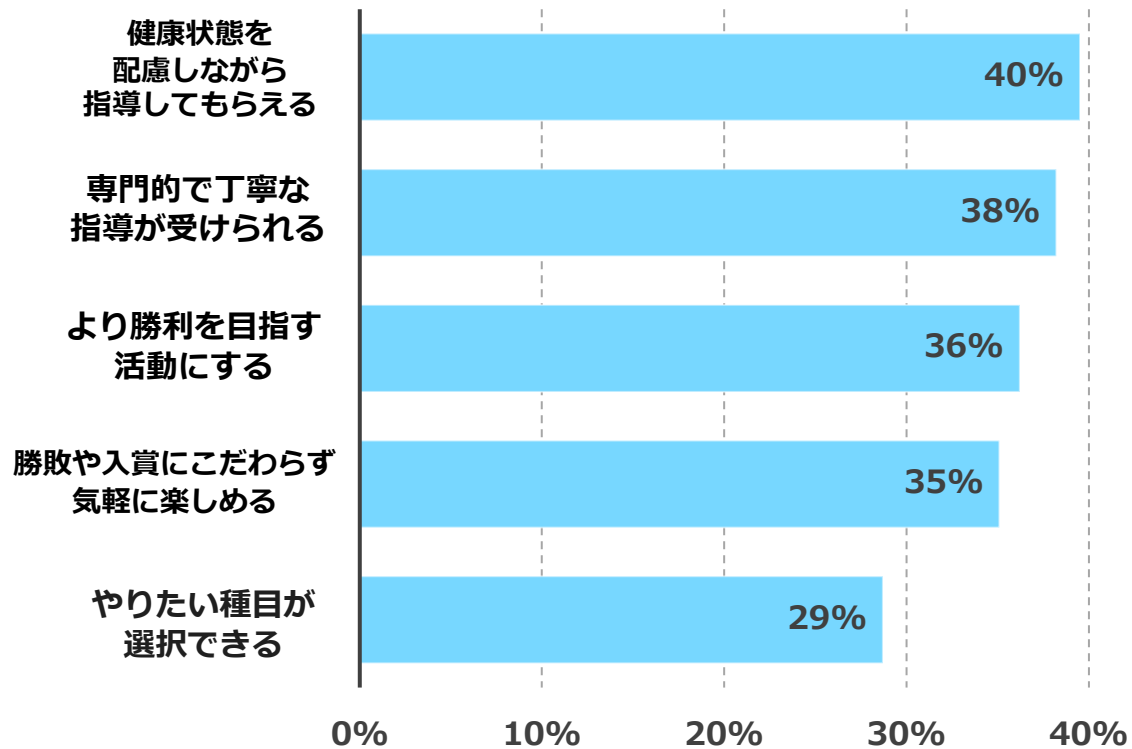
■ Q：同じ地域で、別の学校の生徒と文化スポーツ活動を一緒にしたいと思いますか？



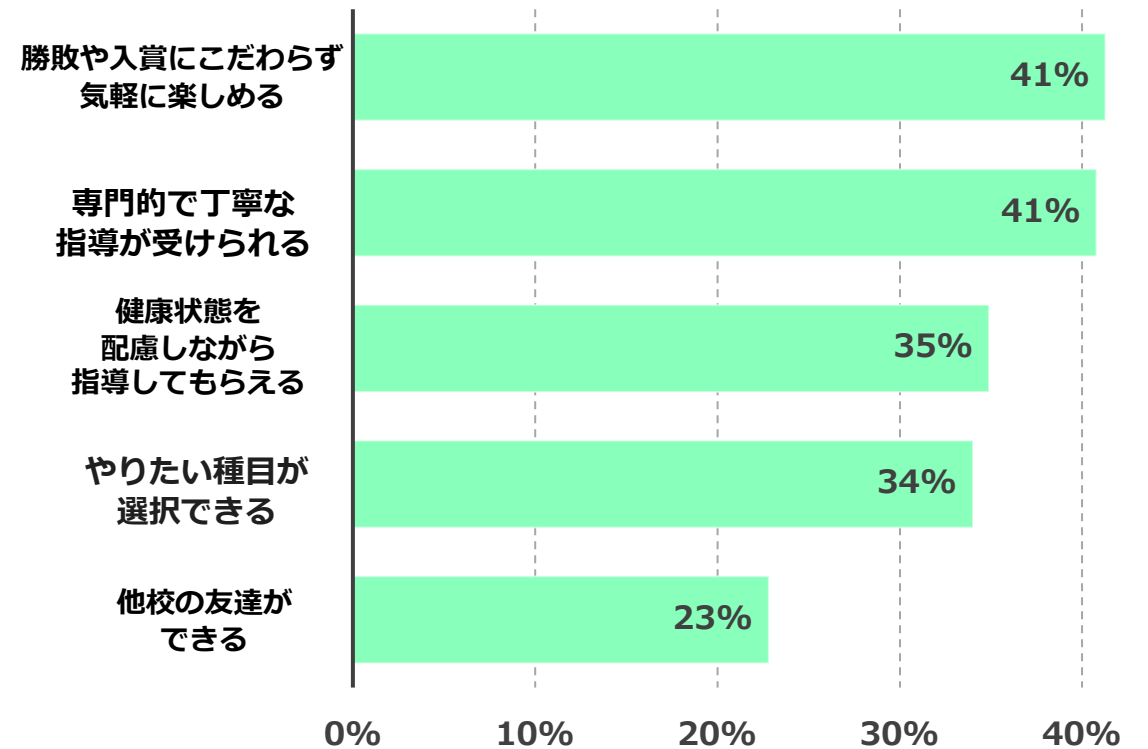
# テーマ4：より良い地域活動に向けて

■ Q：どんな文化スポーツ活動なら、より満足できるものになると思いますか？  
(3つまで回答可)

運動部



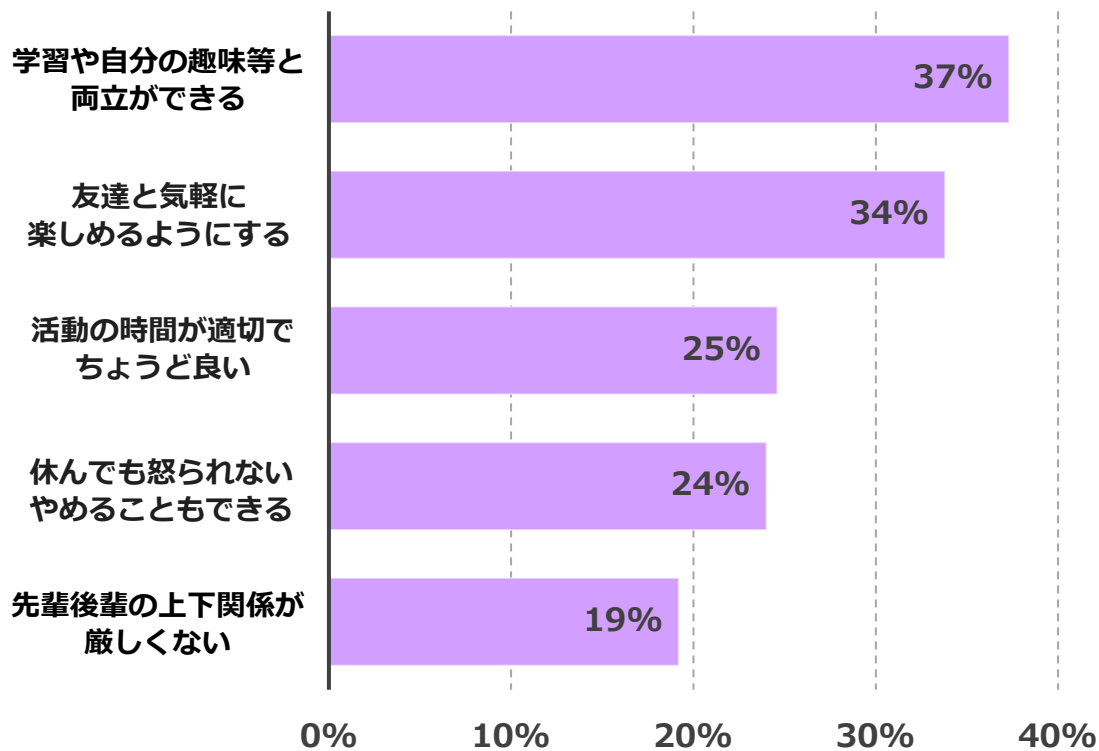
文化部



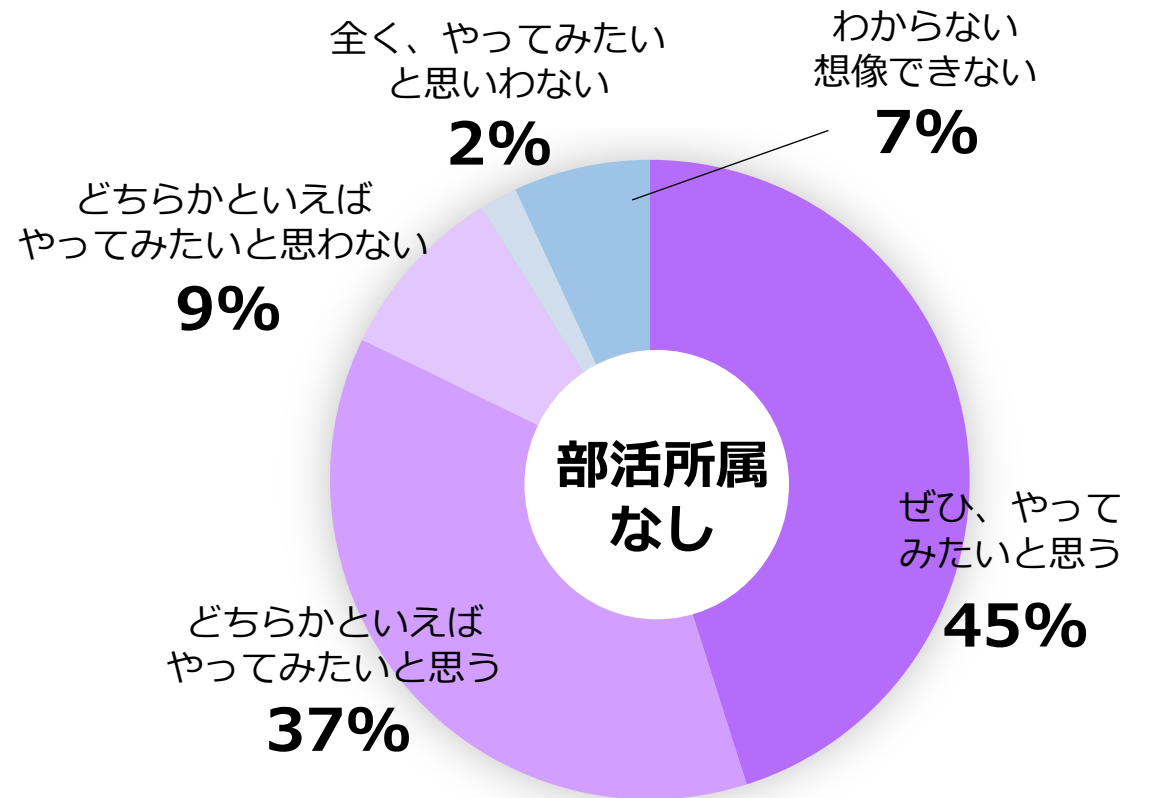
# テーマ4：より良い地域活動に向けて

## ■ 部活動に入っていない生徒の意見

Q：どんな活動なら入りたかったか？



Q：同じ地域で、別の学校の生徒と文化スポーツ活動を一緒にしたいと思いますか？



# テーマ4：より良い地域活動に向けて

## ■ 結果のまとめ

8割近い生徒が「地域で他校の生徒と一緒に活動したい」と回答

より良い活動のためには「健康への配慮・専門的指導・気軽に楽しめる」ことが求められている

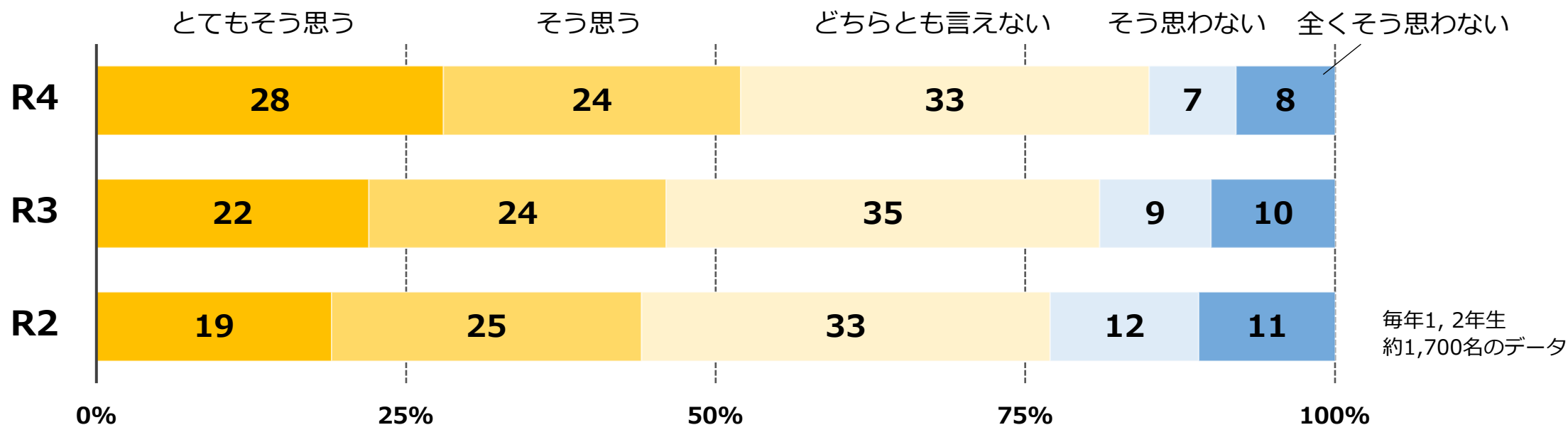
## ■ 提言

地域全体で「皆が楽しめる」文化スポーツ活動を創っていく必要がある

# 継続的な調査が重要

- 長野県飯田市ではR2年度から「冬期(11~1月)の部活動オフ期間」を導入  
毎年、生徒の反応をアンケート調査で確認している

Q: 「放課後の部活動の行わない期間」があつて、良かったと思いますか？



継続して調査することで変化や改革の効果が確認できる

# スポーツ庁・室伏長官からの提案

## 地域スポーツでのコンテンツの例（体験型キャンプ）



新たなコンテンツ



あらゆるスポーツの  
Day camp



あらゆるスポーツのスキルを！

非学  
校的  
タイム  
ライン

従来型コンテンツ

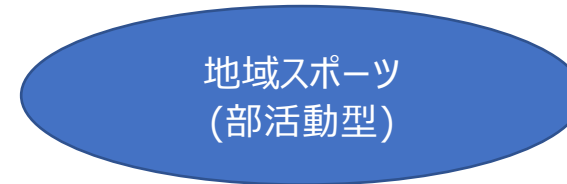
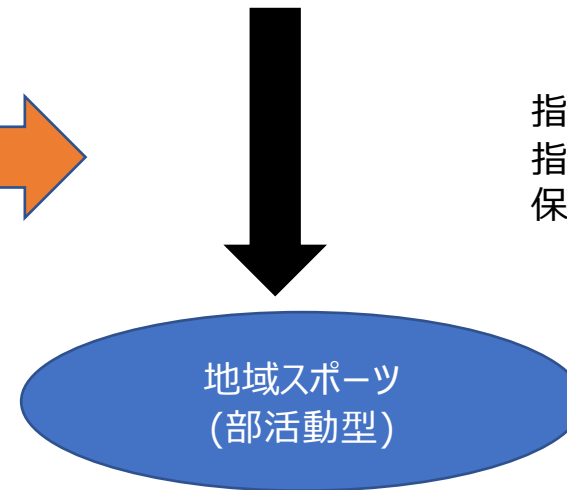


指導者



生徒

指導者不足  
指導者謝金  
保護者の負担



学  
校的  
タイム  
ライン

今のままでは部活動が地域移行するだけの  
コンテンツしかない

# 佐賀市さまへのご提案

- ・当事者である子ども（中学生）たちの声を聞き、実態を共有する  
（アンケートの実施・フィードバック⇒子どもたち中心のビジョン作成）
- ・地域移行に向け、前向きな（楽しい）アクションを起こすこと  
（1Day型イベントの実施⇒地域を巻き込んだ「見える化」）